

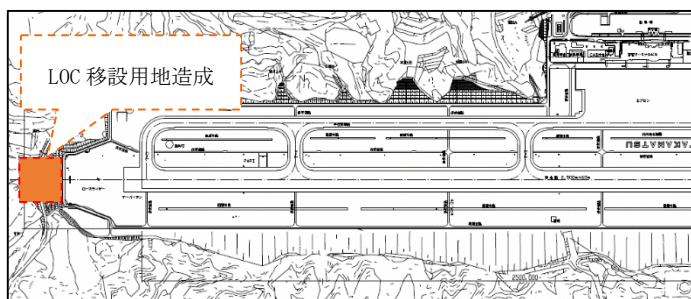
用語説明（1 / 2）

需要の設定

- ・ 高松空港の将来的な旅客需要の設定。
- ・ 旅客需要は、2032年度までの航空需要を高松空港(株)の中期経営計画に従って設定（2032年度に年間307万人）。2033年度以降の旅客数については、中位ケース：2033年度以降旅客需要は横ばい、上位ケース：2022年度～2032年度の旅客需要増加割合と同じ割合で増加し続けると想定している。

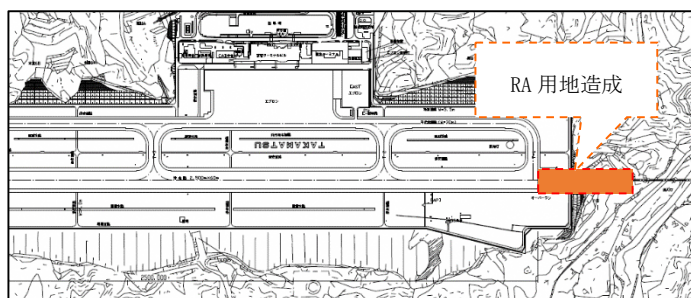
LOC（ローライザー）用地

- ・ LOCは、進入方向を示す電波を発射し進入コースの中心から左右のずれを示す無線装置であり、その装置を設置する用地が必要。
- ・ 高カテゴリー運航を行う場合、施設の要件として電波発出地点（LOC空中線）と滑走路端上空6mの間の見通し確保が必要（地面の反射による電波障害を避けるため）。



RA（電波高度計）用地

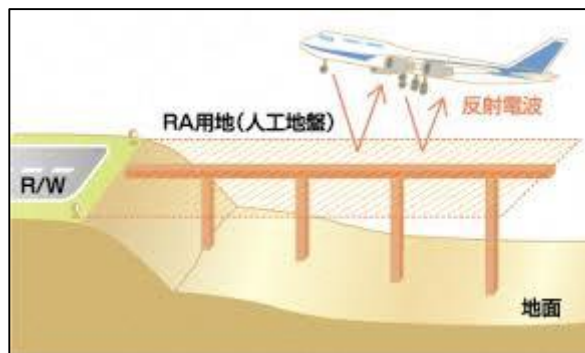
- ・ 電波高度計（Radio Altitude）。直下の地面・水面からの垂直距離を表す。
- ・ 高カテゴリー運航を行う航空機は、着陸前に精度の高い高度情報を入手する必要があるため、航空機の下方に電波を発射し地面からの高さを測定することが必要となる（CAT-Iでは気圧高度計を用いるが、CAT-II・IIIでは当機器が必要）。
- ・ この高さ測定のためには、滑走路進入端から少なくとも300m、幅60mの平坦な用地（RA用地）が必要となる。



用語説明（2 / 2）

人工地盤

- ・ RA用地の整備手法。他空港の整備事例としては、広島空港のRA用地が該当する。
- ・ 電波高度計用地に求められる最も重要な性能は航空機から照射される電波高度計の電波を適切に反射すること（電波反射性能）であり、加えて耐荷性能を満足していればどのような床板形式でも採用が可能であるとしており、本調査においては、橋梁構造により、RA用地を形成することとしている。



テールアルメ

- ・ RA用地の整備手法。本調査における推奨工法。
- ・ 盛土内に帯状の鋼製補強材（ストリップ）を層状に敷設し、土とストリップの摩擦効果によって、強固な補強盛土を構築できる。テールアルメは近年、高速道路や山間部等で多くの施工事例があり、県内でも柵川ダム付替道路などの施工事例が存在する。



金網

- ・ LOC用地の整備手法。LOC 用地を飛び地に整備し、電波障害を抑制する金網（「カウンターポイズ」という。）を設置する。
- ・ LOC 用地を飛び地に整備することで電波障害の懸念があり、シミュレーション等詳細な検証を要する。

